高タンパク、大粒で倒伏に強い大豆品種‘サチユタカ’の特性

大豆は平成11年の食料・農業・農村基本法に続く新たな大豆政策大綱等の施策によって、食料自給率向上に向け、国をあげて取り組んでいる土地利用型作物です。本県では平成8年から本格的な取り組みが始まり、平成14年には窪川町で210ha、香我美町で24haに拡大しました。しかし、現在本県で栽培されている品種は‘フクユタカ’のみで、播種や収穫などの作業が一時期に集中し、大豆生産組織では急激な受託面積の増加に対応できなくなってきました。そこで、梅雨入り前の6月上旬から播種が可能と思われる‘サチユタカ’について本県への適応性を検討しました。

‘サチユタカ’は‘フクユタカ’と‘エンレイ’を人工交配した雑種F₂に再び‘エンレイ’を人工交配して育成された品種です。育成地である九州沖縄農業研究センター（熊本県）のデータでは、‘サチユタカ’

は‘フクユタカ’に比べて、開花期、成熟期ともに早い中間型で、主茎長が短く、耐倒伏性に優れ、粗タンパク含有率も高く、豆腐の加工に適した品種です。

当センターにおける2002年の栽培試験結果では‘サチユタカ’は‘フクユタカ’に比べ、開花期、成熟期とも1週間程度早く、主茎長が短くて耐倒伏性に優れました。収量は‘フクユタカ’よりも多収で、百粒重も‘フクユタカ’の33.8gに対して41.2gと大粒で、育成地と同様の結果が得られました。なお、外観品質では、裂皮粒が多いことからやや劣りましたが、タンパク質含有率では‘フクユタカ’よりやや高い43.8%でした（表1）。

なお、本年は、窪川町、香我美町において奨励品種決定現地試験を実施し、‘サチユタカ’の奨励品種採用に向けての取り組みが行われています。

表1 ‘サチユタカ’の生育・収量と品質およびタンパク質含有率(2002)

品 種 名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	倒伏 程度 (0~5)	収 量 (Kg/10a)	同 左 比 率 (%)	百粒重 (g)	外 観 品 質 (1~9)	裂皮粒 (0~4)	タンパク質 含有率 (%)
サチユタカ	8.02	10.27	51	0	446	122	41.2	5	3	43.8
(対)フクユタカ	8.09	11.04	88	3	365	(100)	33.8	3	2	41.9

注) 播種日は6月14日、収量は粒径7.3mm以上の精粒重、倒伏程度は0が「倒伏無し」～5が「甚」、裂皮粒は0が「無」～4が「多」、外観品質の1～9は数字が小さいほど良質を示す。

[水田作物科 山崎幸重]